

觀世流改訂儒本

內十七

右邊
女島屯
開素所
自純居士
大會

觀之
清之
長世

明治四十三年四月三十日印刷
明治四十三年五月五日發行

訂正者、檢印
ナキモ、ハ偽版也



訂正兼
發行者
丸岡桂

東京市麹町區中六番町二十九番地

印刷者
塚原錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所
凸版印刷株式會社

東京市麹町區中六番町廿九番地

發行所
觀古流改訂本刊行會

電話番町二五四四番

右迄

三月ツレテ
北野、神前、女
神主

早稲
三人
ツク

四方は山に長閑あり。雲居の春
ぞくもくもくこれ麻鳩け神

職行某と試みあり。これ汝度都

よふ。洛陽の名を残りあり。一見侍

て。又水野右近は馬場の花。今を

感あり。承る向ふ。今に。右迄の馬

場の花を眺めむやとなりの三ヶ所へ
行くぞなやと櫻將く。雨の降
りきぬ同く。濡るも花は花を
ぞいざ宿らん松の行くへも見え
る梢よりお野に春もちづつや。右迄
の馬場は着きよけり。早稲
程よ。とれをや右の馬場は着き

てい。あれと見てはた見れ人。と見

えて。車やあへ興を續け。其は面

白。の。輪。やま。ひ。花。や。な。め。を。や

と。な。の。春。の。花。の。開。く。

時。の。心。も。花。や。あ。く。が。れ。あ。る。花

は。空。は。長。閑。あ。る。時。と。え。見。流。せ

も。柳。櫻。と。い。ま。ま。で。錦。と。飾。る。花

車^{くるま}を^をま^まら^ら春^{はる}毎^{まい}は^は傍^{そば}を^をら^ら心^{こころ}も^も永^{なが}き
 氣^きも^もこ^ころ^ろな^なは^は元^{もと}見^み車^{くるま}は^は八^や重^{えい}一^{いつ}重^{えい}見^み
 え^えて^て櫻^{おう}の^の色^{いろ}も^もは^はや^やい^いろ^ろや^や。
 の^の馬^{うま}場^ばは^はま^まの^の向^{むか}ひ^ひより^{より}く^く影^{かげ}も^もな^なし^し
 新^{あらた}白^{しろ}寺^{てら}の^の春^{はる}は^は光^{ひかり}り^りも^も天^{あま}満^{みち}てる^{てる}神^{かみ}の^の
 是^{こゝ}章^{しょう}の^の所^{ところ}古^{ふる}り^りて^て松^{まつ}も^もま^ま高^{たか}き^き梅^{うめ}が^が枝^{えだ}
 の^の立^{たち}ね^ねも^も目^めを^をて^ては^はの^の初^{はつ}花^{はな}車^{くるま}也^{なり}

日の轉ヒ。ハルや小コは續ツグくらん。又ウタ三ミ下ゲ馬バカ
ある頃コふ生ヤの元ヨイ見ミて。右ミは馬
場バに多ナまの櫻ミ花キ。左サ端ヘも通スは傳ハへ
かシはシて。遠ハルく人ヒト家カと見ミて。元ハあれ
も即スナハチち入イるあれハ。右ミは車クルマとまてよ
せり。向ムカシひと見ミれば女メ車クルマに所トコロら
らある昔ムカシ倍ガタリ思シひぞ出デづる右ミは馬バ場

のひょうけ田よあゝねも目まもあ
 ぎばもあゝねのあゝあやなけり
 や泳めきさんこれ業平の江
 る女車と泳み教へさ思ひ出
 てられなりあゝ面白のはもさ
 右の馬場のひょうけの目まもあ
 る女車けあゝあゝ昔に取らあ

[illegible]

青い。さ。ぬ。人。や。花。の。友。く。ち。も。怒。
見。も。さ。ぬ。人。や。花。の。友。く。ち。も。怒。
ぬ。も。花。の。友。く。ち。も。怒。
え。ス。あ。り。て。花。車。に。乗。立。て。本。
つ。は。り。花。車。に。乗。立。て。本。
の。花。車。に。乗。立。て。本。
り。て。花。車。に。乗。立。て。本。
さ。く。あ。り。て。花。車。に。乗。立。て。本。

い行くあが方。さあまは。後。漢。
ま。れ。て。上。の。室。れ。心。あ。れ。や。上。の。室。れ。
心。あ。れ。う。げ。は。名。う。肩。は。神。道。や。か。
野。の。ま。も。時。め。け。る。神。の。名。可。数。
は。眺。む。れ。都。の。室。れ。室。と。霞。
又。わ。た。る。や。北。野。宮。所。は。法。ん。ぜ。よ。時。
を。そ。て。花。標。城。の。宮。所。花。の。濃。

染の色わけて。梅坂や老松の
緑より開けかめて。一度松も見えて
り。日影の室もあらねさま。染
野行き。標野行き。野守見ぞ
や。唐が袖。まき。市。青。け。物。見。と。て。車
も。ま。つ。や。馬。場。わ。た。り。神。ま。ぞ
居。の。名。や。け。馬。場。わ。た。り。神。ま。ぞ

尊^{タツト}なりける^{イ、ト、}あ^早あ^初るがなはなむ。

わ^クもあ^クへ^ク倍^シるは^{ヤミロヤミロ}なむ。

ホ^ホ地^ヂを^ナほ^ク教^{オシ}へ^オま^マ。

真^{マコト}い^マれ^シ神^{カミ}の^{マツシヤ}末^{マツ}社^{シヤ}と^{ヅル}現^{アララ}れ^テ居^ル。

代^ヨを^サり^シ神^{カミ}と^ヨ異^ヒな^ルべ^ク。

同^{ドウ}じ^ニあ^リる^ガな^ム。

ま^マる^マる^マの^ミ靈^{レイ}神^{カミ}と^ヨあ^リる^ガ。

れはよらん。あゝ恥うや神ぞとら。
あさまより行と岩代イハヤの侍サマつとあ
る有刃ササれく。日も曇るぬ之ヒサ際カタの。
天照アマテる神カミもて櫻ウツの宮ミヤと現ハれらよお
野ノの櫻ウツの神カミと夕ユフべの宮ミヤ晴ハレいて
日の夜ヨ神カミ樂ガクを侍サマち給タマへとたなる
る失ウツせよけりやた隠カクレれ失ウツせよけり
史

早言
待謡

いふも神の代に松の
毒の駒と神と居るの恵み
真ありありあがりや
うもれ畏まは代と守らるる
馬場の春を待つ花は死に
うて鞍軒九匹の塵を交わす
鹿和光の影も星のあまの居る威

光も影高くたも揺るも作らるる
 ものぞある代のめでたきよ星
 あも天照る神に恵みを受け
 櫻の宮居と現れ給ひとよみ
 野の神に宮居よた櫻葉の神
 と現れ星らの威光を顯し衣の袖
 もたぎれたさなり
 中舞 月も照る添